



人間関係の とり結び方についての 相互観察と自覚

武村 昌 於
福田 志 保

授 業 案

一、日時 昭和六十二年八月一日(土)
午前九時四十五分～十時三十分

二、学年・組

福井県大野市立蔵生小学校

第五学年 福田志保級

男九名 女五名 計十四名

三、授業形態 児童の言語生態研究会会員によるテ

ームティーチング

四、授業テーマ 人間関係のとり結び方についての

相互観察と自覚(領域)構え

五、テーマ設定の理由

私達は、日々子ども達に接しているが、子ども

達の仲間作りや、人間関係については、今まで
「勤」によって支えられることはあっても、本
気で真正面から取り上げた経験はない。必要性
は、次にあげる事例によってもはつきりしてい
る。

● クラスの人間関係把握に一学期間かかる。勤に
たよる場合が多いが、どこをどのように刺激、
是正すべきか、方法的に迷う。

● クラスの中に、「はぎれ」(仲間はずれ)者が出
た場合の生活動態把握。

● はじめの扱いに手違いがあると、修復に非常に
時間がかかる。

△目的▽我々は、学校教育において、欠くべから
ざる仕事として考えられることは子供の生活感
情に刺激を与え、変化させ、新しい世界を得さ

せることである。

△授業構成の考え方の基本項目▽

1. A子がB子をこう思っていることの日常性の
再確認、再発見。

2. A子がB子をこう思っていることの新発見を
行わしめること。

3. 相互観察にともなう自己反省を促す事。

4. 相互観察にともなう仲間意識の変革。

5. 人間関係意識の進展を疎外させ、阻止してい
るものの有無、もしくは、その偶像是落ちる
か、落ちないか。

6. 何を強者、弱者としているか。

7. 人間相互関係における個人的、好き嫌いの問
題処理。

8. 人間的理想像を描いているか。(こういう人

間になりたい)

△授業の予測と期待▽蔵生小学校の十四人の児童は、ばらばらな根なし草の都会の子とは違って互いに慣れ親しんでいる。みな、それぞれに仲が良いだけに、けんかもしているだろう。そして役割分担をし、両者が認め合っているという関係を結んでいるにちがいない。

人間の理解のしかたには、それぞれが、それぞれなりに理解しあっている。そして位置を持っている。それは、異質であるが故に均衡を保っている。それだけに集団思考するのか、集団思考をきらうのかなど、人間関係のとり結び方を見てみたいのである。

六、**本時の目標** 人と人とのつながりの在り方の再確認、及びそのことから受ける自己変革。

七、**本時の展開**

学習活動	指導上の留意点
○学習開始のあいさつをする。 1. 代表の子どもを選び児童の紹介をする。 ○代表児童を二名選出する。 ○教師の紹介の仕方を参考に紹介する。	○誰が選ばれるかを見る。 ○児童の紹介に先立って会員の先生方を相互に紹介しあい、紹介の仕方の間接提示

2. 本時の学習のめあてを確認する。

きょうは、クラスの中でみんながどのようなつながりを持っているかを考える授業をします。

3. 教材文「新しい友達」を黙読し、教師の朗読を聞く。

4. 話の中の登場人物にクラスの中の誰が一番よくあてはまるかを考える。

をする。

○児童の紹介の際、他の児童から意見や異議があれば言わせるようにする。

○一人ずつ順番に指名し言わせる。
○自分から自分のなりたい登場人物を言っても良い。
○どの役に、誰がよいのか、どうして良いのか理由も言わせる。(その子の性格などを考慮して)

八、**評価**

人間関係とは、どういうことであったか。五年生段階での認識水準を得ているかどうか、及びそれにとまなう自己認識に本授業が役立ったかどうか。

教材文

「新しい友達」

瀬底ノリ子作
柿の葉がうすみどりに光っている頃だった。学童クラブの幸子先生が、おやつ時間に、「あしたからあたらしい友達が来ることになりました。みんな仲良くしてね。」と言った。

○自分のあてはまる人物に対して異議の申し立てをしてもよい。
○自分でセリフをかえてもよい。

5. ひとりひとりの感想を聞き、まとめる。
○「まさかと思った人」。
○「やつぱりと思った人」。
○「どうしてと思った人」。

(意外) のそれぞれ
(納得) の思いにつ
(不満) いてきく。

「山下小の子？ 原小の子？」

いがぐり頭のあつしがまっさきに立ち上がってきいた。

「山下小でも原小でもありません。ちがう小学校の人です。あつし君、仲良くしてあげてね。」

仲良くしてあげてねと言われて、あつしは目玉をキョロキョロさせ、おどけた口調で

「わっかりました。」

と言つて、みんなを笑わせた。

ちかは、ボーッと外を見ながら「山下小でも、原小でもない他の学校の子、どんな子がくるのだらう」と考えていた。他の学校の子ということばがいい感じがして、何だか胸がわくわくした。

「ねー、ちかちゃん、新しく入って来る子、私達の班にするって、幸子先生言つてたよ。私、先生から名前書いて班ノートに書かなくっちゃ。ひき出しだつてどこにするか決めなきゃいけないし、何だかいそがしいね。」

まさ子は、大急ぎでおやつビスケットを食べると、「じゅんぴ、じゅんぴ」と言いながら幸子先生のところへとんでいってしまつた。

「おまえ、あたらしいやつがくるのうれしい？」

ちかのうしろの席で、直人^{なほと}と次郎が話している。

「とかげつかまえて、ひき出しの中に入れちゃおうか。女だつたら泣くな。」

「女だつたら泣くな。」

次郎があいづちを打っている。

「もし男だつたら、いかるかもね。」

「それより、まさ子の方がいかると思う。『そういうこと、どう思いますか』とか言つて。」

「おれ、あたらしいやつつて、きらいなんだ。」

「はずかしいもんな。」

「おまえもテレる？」

「テレる。」

俊夫がおやつビスケットのおかわりを取りに来た。

「俊夫君、あたらしい友達つてどんな子だと思ふ？」

ちかがきいた。

「会つてみなきゃわからない。」

「あたらしい子が来るの楽しみ？」

「会つてみなきゃわからない。ちかは楽しみな。」

「うん。どんな子かなーと思うと楽しみ。友達になれるかちょっと心配だけど。」

「そういうのはね、会つてみればわかるの。」

あくる日、クラブの玄関をまっ先にあけたのは、まさ子だつた。

「ただいま、新しい友達来た？」

あつしも山下小の子たちと急ぎ足で帰つて来た。

「あれ、まだ新しい子、来てないの？」

ちかは、先生に頼んで、学級園のマーガレットを

少しもらい、小さな花束にして持つて帰つて来た。

直人と次郎は、ずい分遅れてやつて来た。

俊夫がいちばん遅かつた。弟の幹夫^{みきお}ちゃんといつ

しよだつた。

しばらくすると、クラブの前に、赤い自動車が止

まつて、お母さんといつしよに一人の女の子が降り

てきた。

「あつ、新しい友達だ。」

みんな玄関や窓にとびのつて、その子を見た。昨日からのこうふんで、何となくワーワーしていたのに、その子を見た時、みんな一瞬のうちにしずまりかえつた。

自動車から降りた子は、顔を空に向け、お母さんに支えられ、まるであやつり人形みたいにギクシヤクやつと歩いていったのだつた。

「夕子ちゃんが来たわ。新しい友達よ。」

幸子先生が急いで、外に迎えに行つた。

「夕子ちゃんていうんだ。」

部屋の奥で、ひとり本をひろげていた俊夫の声に、みんなは、はつと我にかえつた。

みんなは、窓からとびおり、下駄箱の前に立つて、

夕子ちゃんが通れるように道をあけた。

「こじま ゆうこ です。よろしくね。」

夕子ちゃんをうしろから抱きかかえたお母さんが、

みんなの顔を見まわして、ひとりひとりに笑いかけた。

みんなていねいに頭をさげてあいさつした。

俊夫の弟の幹夫ちゃんが、大きい子達の間から

身をのり出して、まるでこわいものでも見るように、

じつと夕子ちゃんを見た。そして突然、

「お兄ちゃん、どうしてこの子、こんなかつこうを

しているの。なぜ歩けないの。この子目が見えない

の。」

と大きな声で 俊夫にたずねた。

そばにいたまさ子が、あわてて、

「みきおちゃん。そんなこと言つちやいけないの。」

と幹夫の口をおさえた。おばさんは幹夫に言つた。

「そう、夕子は、赤ちゃんの時から目が見えないの。

いろいろ教えてやつてちょうだいね。」

「お・か・たん」

夕子ちゃんが奇妙な、びっくりするほど、大きな声を出し、顔を上に向けて、手足をばたばたさせた。

「お・か・たん、お・か・たん」

夕子ちゃんは、お母さんの手の中で、激しく身体を上下にゆすった。

「夕子ちゃん、幸子先生よ。夕子ちゃん。」

幸子先生は、腰をかがめ、夕子ちゃんを抱いた。夕子ちゃんは、さつきよりも、もっと大きい、人の声とは思えないような鋭い声を出し、幸子先生のうでの中でもがいた。

「夕子ちゃん、夕子ちゃん。」

幸子先生は、夕子ちゃんの背中をゆくりさすり、汗とよだれでベトベトしているほつたに顔をつけ、何度も何度も名前を呼んだ。

「先生、泣いてる声している。」

夕子ちゃんの名を呼ぶ幸子先生のくぐもった声を聞いて、ちかの心臓は、早鐘のようにドキドキ鳴った。

「夕子ちゃん、お部屋に入ろうね。」

幸子先生は、夕子ちゃんをしつかり抱きかかえて、部屋の中につれていった。いやいやをするようにふりまわした、夕子ちゃんの手がちかのマーガレットにぶつかり、花びんがおちてガシャツとわれた。ガラスがとびちり、マーガレットが床にちらばった。せつかく飾っておいたのに、とまさ子は思った。一瞬のでき事に、みんな立ちすくんでいたが、夕子ちゃんのおばさんがとんできて、水色のハンカチで床をふいた。きれいな水色のハンカチだった。まさ子は飛び立つように部屋を出て台所に行った。

台所で手を洗っているのぶ子が、

「どうしたの」と聞いた。

「あの子、ほら、こんど来た子、花びんわっちゃったのよ。」

「やーね。」

のぶ子は顔をしかめた。

「あら、そんなこと言うもんじゃないわよ。」

まさ子は、ちよつときつく言うと、急いで、雑布を持って、もどっていった。

「かつこつけちゃって。」

のぶ子は、まさ子の後ろ姿につぶやいた。

まさ子は、台所から雑布を持って来ると、

「あの、どうぞ、これ。」

とおとなのような口ぶりで、おばさんに渡した。

「すみません。」

さつき、みんなに笑いかけた笑顔をこわばらせて、ちらばったマーガレットの花を集めた。まさ子は、おばさんの手がふるえているのを見た。

「みんな、座って、新しい友達よ。」

幸子先生が、みんなを呼んだ。もう、もとのやさしい、明るい幸子先生の声にもどっていた。

「みんなに紹介します。新しい友達のこじまゆう子さんです。夕子ちゃんは、みんなとちがう目の見えない人のための、盲学校という所に行っています。これから時々、クラブに来ますから、みんな仲良くしてね。」

みんなは何も言わず、じつと夕子ちゃんを見ていた。夕子ちゃんは、あごをつき出し、顔を上に向けて、よだれをたらし、小さいにぎりこぶしを空中で、ば

たばたさせて、それでも先生の話を聞いているような感じがした。

「オレ、やだ。」

しばらくの沈黙のあと、直人がみけんにしわをよせ、下を向いて小さい声で言った。

誰もが言っていない言葉だと知っていたけれど、誰も直人をせめなかった。

直人は、椅子から立ち上がると、ポケットの中からゴムのとかげをとり出し、床の上にはうり投げた。ゴムのとかげはひっくり返って、黄色いおなかを見せた。となりに座っていた次郎も立ち上がり、やっぱりポケットの中からゴムのへびをとり出して床になげた。みんなは、ドキッとして後ずさりし、そして夕子ちゃんの方を見た。夕子ちゃんは、相変わらず、あごをつき出し、ばたばたと何かを探するように、手をうごかしていた。

「やっぱり、あなたたち、そんなので新しい友達おどかさうとしていたのね。」

まさ子の声で、みんなは、ホッとしため息をついた。あつしが立ち上がり、いがぐり頭をポリポリかきながら

「先生、その子、ほんとに山下小の子？」

と聞いた。

「目が悪くなければ、あつくんといっしょの山下小だったんだけどね。あつくん、仲良くしてね。」

あつしは、先生と目が合うと、テレクさそうに目をキョロキョロさせ、きのうみたいににおどけて、

「わっかかりました。」

と言った。その顔は、ヒョットコがベソをかいいたような顔だった。けれど誰も笑わなかった。

ちかが、マーガレットの花束を夕子ちゃんにわたそうとした。先生は、夕子ちゃんの手をとって、マーガレットの花にさわらせ、ちかの頭に、夕子ちゃんの手をおいて、

「ゆう子ちゃん、ちかちゃんよ。ゆう子ちゃん、ちかちゃんよ。」

夕子ちゃんは、ちかの耳や顔にさわわり、ほつぺたに顔を近づけた。オレンジみたいな汗のにおいがした。

ちかは心の中で、ゆう子ちゃん、ゆう子ちゃん、と名を呼んだ。

小さい幹夫ちゃんが、幸子先生のそばに走りより、「先生、夕子ちゃんの目がね、見えるようになりますように、すようにって、おいのりしてあげれば。」

とはずかしそうに言った。

お兄ちゃんの俊夫が、幹夫の手をひっぱって椅子にかけさせ、かわりに、自分が気を付けをして、

「先生、ぼく、夕子ちゃんの友達になります。」

と言った。こうして、夕子は、ちか達の学童クラブの仲間になった。

授業記録

T みんな先生の友だち、若い人も年とった人もいるけど。

(あいさつ) おはよう。

T 今日先生がみんなを見るのは初めて。みんなが先生見るのはじめて。緊張しないで。まず自己紹介。先生が紹介するからよく見ていて。こ

の先生は若い？ 年とってる？ もう一人、実はこの先生二人は姉妹。じゃこの二人から先生方を紹介してもらいます。

T₁ 堀江先生。おしとやか。

T 異議があつたら。

T₂ 私より年上に見える佐藤先生。まじめなまじめな方。葛西先生、やや若い。まじめでひかえめな方、そのかわり長くしぶとく仕事なさる。

石本先生、見た通り俳優のだけれかさんに似ていて、たいへん二枚目です。何回もいらつしやるけど、なかなか発言なさらない。もつと発言してほしい。

T₃ 今、紹介されなかった先生、キカイに強いと思うでしょ。相原先生、剣道が強たくましい。

すもうじやない。宮市先生、先生になりたてのホヤホヤの先生。いい発言する宇田川先生、字が上手。福田志保先生。これはみんなに聞く方がいいね。先生のまたもう一つ上の先生。玉川大学の上原輝男先生。厳しい。何回も泣かされた。(笑) 武村先生、みんなを包みこむ、気持ちの大きい先生。

T あのように説明します。代表に出てもらって二人。だれがいい？

C まさかつちゃん、よつちゃん。

C まさかず、誠喜、交替で。

T₁ ではこちらからいきます。帰山健二君で、とてもおとなしくていい子です。

C₁ 白井よしひろくんは、車にとでもくわしくて車がとても好きです。ひょうきんで頭がよくて、いたずらもちよつとします。かくれておどかし

たり。

C 次はたかゆき、は頭もいいし、長距離もとても速い子です。

C 次は坂本まさよしを紹介します。まさよし君は時々、人をおどかしたり人をおさえついたり足をかけたりします。そしてとても頭がいいし、計算もできるので、いい子。

C まさよし君は、おもしろい子だと思う。おもしろい事を言ったり(Tどんな?)

C 森下公久君は、スキー場に行つてスキーをよくします。スポーツはスキーがとくいです。

C むつみさんは少し、乱暴だけど、おもしろいし、おもしろい顔をしたり、時々男の子みたいなことをする。しゃれを言ったり。

C 帰山成子さん、この子はふつうはおとなしいけど、算数になると頭が働いて、頭のいい子です。それと理科がとくい。

C キヨミちゃんは、とても女の子と仲がよくてだけれとも仲良くなって、時々女の子と遊んだりしていて明るい子。

C 谷口みゆき、やすちゃんと親しくて勉強はとてもできる子。

C 人をけとばす。

C やすよちゃんは、キヨミ、ミユキと仲よく、いつも、ひついたりそばにいる。

C まさかず君もよしひろくんとよく似ていて車のことをよく知つていてスキーもうまい。

T 公久君やよくとスキー場ですべつたりして、冬になると仲良く遊んでいます。
C あだ名が、聞けなかった。あだ名はある? 降幸

はたかばう、育代はあっちゃん、昌禎はマーチ、聖美はきよはた、健二はむつごり、睦美はジョッチ、誠喜はマス吉、マスカット政一はななっち、成子は、キミコ、公久はみや、美由紀は、せいじ、静一郎はよっち、ちんげん、義博はオバQ。

動物の名前ない？

いるー。あててみてください。

黒板を見て、あの子はあんなこと言ったな、と思ひ出しながら、お互いにどのようなつながりをもっているか、考える勉強。教科書をよんで何が書いてあるかではなく、お互いどんな風に結びついてるかを考えてみよう。これからお話をよみます。まず一回自分で目を通してみて。

(範読)

難しかった？ これから考えてもらいたいのは、いろいろな人物にだれが一番よくあてはまるか、それを皆で考えてみよう。黒板をよんで。(名前) 皆は、この話に出てきた人物に一番よくあてはまるのはだれだろう。のぶ子だったら？ あつしだったら？ 一人一人だれが一番役に合っているか、たかゆきくんは、せいきくんだったらだれにあっているか。一人でもいい。

まさかず君は直人君に似ています。

自分だれだ。

あつし君は、せい一郎君。

たかゆきくんが次郎。

せいきくんが俊夫。

きよみちゃんがまさ子。

ちかが、やすよちゃん。

のぶ子が、睦ちゃん。

公久君が、みきお。

まさよし君が、直人。

昌よし君が、次郎。

札が、ない人がいるな。

義ひろくんが、みきお。

みゆきちゃんが、ちか。

よしひろくんが、あつし。

かえり山君が、俊夫。

けんちゃん、なな子ちゃんがいらない。みやこしくんは？

もうない？ なり子ちゃん自分でどう？

なり子ちゃんは、まさ子。

みゆきちゃん、まさ子。

他にない？ みんなに意見をきこう。たかゆきくんは次郎くんがあつてるか？

あつてないような気がする。

ぼくは次郎君でいいです。

一たか幸君は、あつし。低学年まではいじめたり、乱暴したりしたけど、高学年になったらいい事をよくするようになったので。

やっぱりぼくは、隆幸君、次郎がいいと思う。

静一郎君、よしひろは、あつしになっているよ。

静一郎、あつしにぴったりだ。

どんなところが似てる？

静一郎君は、あまり人の悪口言わないから。低学年の子とかに、思いやりがあるから、あつし、ぴったり。

ぼくはよくわからない。

もう一人のあつし、義博。

ぼくはちがうと思う。ぼくは時々人の悪口を言うことが多い。

静一郎があつて。

みきおでどうだ。

みきお (確認)

両方とも、あつてないな。

じゃ自分だったらどれ？

ちょっと、わからない。

じゃ、女の子、やすよちゃん、ちかちゃんか、さあどうだ。あつてると思う人、どんなところ似てる？ 本人は。

あつてると思う。

先生方、うなずいている。みゆきちゃんは、ちかちゃんにあつてると？ どこ。

やさしいところ。

同じ。

本人はどう？

まさ子の方があつて。

ちかちゃんの方があつて？ 女の子、二人、まさ子があつて、男の子たくさん、きよみちゃん、まさ子にあつてるか？ きよみちゃんとみゆきちゃん、どちらがまさ子に近い？ あつて？ 成子ちゃんもいた。三人のうちだれが一番まさ子にあつて？ みゆき5人、きよみ6人、なり子0人。

健ちゃんとしおくんに近い、あつてると思う人(1人)

けんちゃんはゆう子がきた時、俊夫くんは、へやの奥で本をよんでいたから。

ぼくは、よくわからない。

T むつみちゃんは、のぶ子がびったり。

(手あげ全員)

C₆ のぶ子が、やーねとか、かつこうつけちゃ
つてとか、言ったのがよく似てたから。

C₇ 本人、似てると思う。やーね、とか。

T 自分だったら、もつとこういうというのはな
い？

C₇ (黙)

T 俊夫君はせい喜君に似ている。

C₁ 俊夫君は、とてもやさしくて——が似ている。

C₆ 友達にやさしいし、自分から進んで遊んだ
りするから。

C₂ あつてると思う。

C せいきが似てる。

T なおと君に政一。

C₁ ぼくは、とかげでおどかすところが似てる、
と思いました。

T 公久くんがみきおくんにあつてると思う？

C₅ 公久君はみきお君みたいに先生にいい事を
言つて相手の子を励ましたりするから、みきお
君にピッタリだと思う。

T 自分は、もつとちがうんじゃないかという人い
ない？ もうあれでいいの、きまり。

C₁₁ ぼくは、あつてないと思う。

T まさよし君は直人と次郎。

T 直人にびったり (なし)

T 次郎がびったり (2人)

C₉ まさよし君は、てれる方だから。

T 次郎の方がびったり。

T じゃ、最後に、自分だったら、こういうふう

言うな、(話ではこう書いてあるけど) あの子
だったらこういうふうに言うな、というのがな
い？

T 政一君いる？ 直人君に似ている。

C₇ いたずらのゴムのとかげを床の上に放りなげる
？ 政一だったら、なんでなげるの？

T 目の不自由な子にいたずらをしたら、かわい
そうだから。

C₁₃ かわいそうだから、放り出したの？

T 目が、見えないから。

C₁₃ そうせつかく用意したのということ放り出
した。政一君は、かわいそうにという子だよ。

C₁₃ むしろあわててかくすんじゃない、いたずらの
道具をさ、口の中で「ごめんね、つまらないこ
とを考えて」と言うんじゃない。

T ずい分、長い時間やつた、ありがとう。先生、
五年生をもつていて、今、もっている子と比べ
て考えてました。いい子だなと思った、思った
ことをかくさずにみんなは言ってくれた。

C₁₃ 最後に、今まで話し合いをしてあの子はどうだ、
こうだやつたけど、今までにこういうこと考え
たことある人？ (なし) 考えたことなかった人
(全員)

T 今話し合いて、人から言われたり自分で言っ
たりして、役が決められたけど、内心どう思っ
た？ 「まさか」と思ったか、「やっぱり」と
思ったか、「どうして？」と思ったか、きいて
みたい。

C₁₃ 「まさか」と思った人 なし

C₁₃ 「やっぱり」 陸美、成子

「どうして」 隆幸、育代、昌禎、聖美、誠喜、

政一、公久、美由紀、静一郎。

T 自分はこの役ではないと思ったの？

C₁₃ どうして、は、不満なのこつている、
そういう気持ち。

T₃ 最後に、(自分の役が)好きか、きらいか。

C₁₃ いや。

C₁₃ すき。

C₁₃ すき。

C₁₃ どちらもでない。

C₁₃ ぼくはどれもだめだから。

C₁₃ 好き。

C₁₃ 好き。

C₁₃ きらい。

C₁₃ きらい。

C₁₃ すき。

C₁₃ すき。

C₁₃ あんまり好きじゃない。紹介された時男の子
っぽいと言われたけど、(女の子だから)言わ
れたくない。

T みんな、とても反応がよかった。先生もとても
楽しかった。ありがとう。

C 児童

T 武村昌於(東京・玉川学園小・教諭)

T 福田志保(福井・蔵生小・教諭)

C 児童

T 武村昌於(東京・玉川学園小・教諭)

T 福田志保(福井・蔵生小・教諭)

C 児童